3-080-893-**02** (1)

SONY

取扱説明書

サイバーショット応用編／困ったときは

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

別冊の
「サイバーショット基本編」
もご覧ください。

DSC-P8/P10

目次

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

動画を撮る

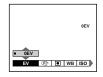
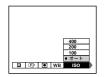
パソコンで楽しむ

困ったときは

その他

用語の解説／索引

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

本機の設定／操作のしかた

ここでは、本書でよく使われるメニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。

メニューの設定を変える

1 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた項目の文字・記号が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わり、そのまま決定されます。

メニュー表示をやめるには

MENUボタンを押します。

SET UP画面で設定を変える

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

モードダイヤルを「SET UP」以外にします。

• DSC-P10では、📷が📷1と📷2で表示されます（75ページ）。

静止画の画質を決める

モードダイヤル：P/SCN

静止画の画質を選ぶことができます。画質（圧縮率）は［ファイン］（高画質）と［スタンダード］（標準）の2種類から選ぶことができます。

1 モードダイヤルを「P」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［ ］（画質）、▲/▼で希望の画質を選ぶ

- ここで選んだ画質の設定は、電源を切った後も保持されます。
- モードダイヤルを「（マルチ連写）」にしても操作できます（17ページ）。

フォルダを作成／選択する

モードダイヤル：SET UP

本機は“ メモリースティック ”の中に複数のフォルダを作成することができます。また、入れたいフォルダを選択して記録できます。
新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成することができます。

- 1つのフォルダに記録できるのは最大4000枚です。フォルダ容量を越えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。

新しいフォルダを作る

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ ］（メモリースティックツール）、▶/▲/▼で［記録フォルダ作成］、▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

下記の画面が表示されます。

3 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

既存最大番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

フォルダ作成を中止するには

手順2または3で［キャンセル］を選びます。

- 一度作成したフォルダを本機では削除することはできません。
- 撮影する画像は、違うフォルダを選択するか、さらに新しくフォルダを作成するまで、そのフォルダに記録されます。

記録フォルダを選択する

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ ］（メモリースティックツール）、▶/▲/▼で［記録フォルダ変更］、▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダ選択画面が表示されます。

3 ◀/▶で、希望のフォルダを選び、▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダの変更を中止するには

手順2または3で［キャンセル］を選びます。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選ぶことはできません。
- 画像は選択した記録フォルダに記録されます。本機では記録した画像を別のフォルダに移動することはできません。

オートフォーカスの方法を選ぶ

本機には、被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を設定できる「AF測距枠」と、AFのレスポンスやバッテリー消費量に合わせてピント合わせの動作が設定できる「AFモード」の2つの機能があります。

ピント合わせの測距枠を選ぶ
– AF測距

モードダイヤル：P/SCN/

マルチポイントAF ()
中央を中心に左右の3か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合に有効です。AFロック後、ピント合わせを行った位置を緑の枠で確認することができます。

中央重点AF ()
中央付近の被写体をねらってピント合わせをするときに便利です。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。

1. **モードダイヤルを「P」、「SCN」、「」のいずれかにする**
2. **MENUボタンを押す**
   メニューが表示されます。
3. **◀/▶で［］（フォーカス）、▲/▼で［マルチAF］または［中央重点AF］を選ぶ**
   自動ピント合わせをします。ピントが合うとAF測距枠の色が白から緑色に変わります。

マルチポイントAF

中央重点AF

ピント合わせの動作を選ぶ
– AFモード

- 動画（MPEGムービー）撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手振れに強いAFが可能です。中央重点AFの場合は、中央部分のみで測距するため、狙った部分のピント合わせに便利です。
- スマートズームやAFイルミネーターを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、[ ] または [] が点滅し、AF測距枠は表示されません。

モードダイヤル：SET UP

本機では、ピント合わせの方法を下記の3つのモードから選ぶことができます。お買い上げ時はシングルAFに設定されています。

シングルAF（S AF）

近景から遠景まで、幅広く精度がよいピント合わせを行います。動きのない被写体を撮影するときに便利です。シャッターボタンを半押しする前はピント合わせを行いません。シャッターを半押しし、ロック完了すると、フォーカスが固定されます。

モニタリングAF（M AF）

ピント合わせの時間を短くすることができます。シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを行うので、ピントが合っている画像で構図を決めることができます。シャッターを半押しし、ロック完了すると、フォーカスが固定されます。

- シングルAFに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

コンティニュアスAF（C AF）

シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを行い、ロック完了後もピント合わせを行います。被写体が動いた場合でもそのまま撮影が可能です。

- 下記の場合は、ロック完了後、ピント合わせを行いません。「C AF」が点滅し、モニタリングAFと同じ動作になります。
  ー暗い状況下での撮影
  ースローシャッターでの撮影
- AF測距枠は中央固定になります。
- 動きの早い被写体を撮影する場合、追従できない場合があります。
- ピントが合ったときのロック音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影のときはシャッターボタンを深く押し込むとピントが固定されます。
- 他のAFモードに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ ］（カメラ）、▶/▲/▼で［AFモード］、▶/▲/▼で希望のモードを選ぶ

［シングル］または［モニタリング］を選んだときは、AF測距枠も選んでください（7ページ）。

- マクロモードのときは近い被写体に精度よくピント合わせをするためAFが遅くなります。素早い撮影をしたいときは、マクロモードを使用しないことをおすすめします。
- 液晶画面をオフにしてファインダーで撮影すると、シングルAF動作となります。
- DSC-P10では、 が 1 と 2 で表示されます（75ページ）。

撮影のテクニック

被写体をフレームの端にする構図などで撮影する場合、端の被写体にピントが合わず、中央にピントが合う場合があります。このようなときは、AFロックを使用し、ピントをねらった被写体に合わせて撮影します。ただし、コンティニュアスAFのときはこの機能は使えません。

AF測距枠

AE/AFロック表示

被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターボタンを半押しする。
AE/AFロック表示が点灯に変わったら、半押しのまま構図を戻して、シャッターボタンをさらに押し込む。

- AFロックを使うと、画面端に被写体があるときにも、ピントが合った画像を撮ることができます。
- AFロックの操作はシャッターボタンを押し込む前であれば、何回でもやり直せます。

被写体までの距離を設定する – フォーカスプリセット

モードダイヤル：📷P/SCN/🎞

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、網や窓ガラス越しの被写体の撮影など、オートフォーカスが効きにくいときにフォーカスプリセットを使うと便利です。

1 モードダイヤルを「📷P」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［F］（フォーカス）、▲/▼で被写体までの距離を選ぶ

被写体までの距離は次の中から選べます。

0.5m、1.0m、3.0m、7.0m、∞（無限遠）

オートフォーカスに戻すには

手順3で［F］（フォーカス）を選び、［マルチAF］または［中央重点AF］を選びます。

- フォーカス距離の設定は多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- レンズを上や下に向けると誤差は大きくなります。
- ［0.5m］を選んだときに表示が点滅したら、点滅しなくなるまでズームWボタンを押してください（DSC-P10のみ）。

露出を補正する

– EV補正

モードダイヤル：📷P/SCN/🎞

自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。補正する数値は＋2.0EVから－2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

1 モードダイヤルを「📷P」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［±］（EV）を選ぶ

露出補正値が表示されます。

4 補正値を選ぶ

▲/▼で露出補正値を選びます。

被写体の背景の明るさを液晶画面で確認しながら調節してください。

自動露出に戻すには

露出補正値を0EVに戻します。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

撮影のテクニック

通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下の画像のようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときなどは－方向に補正すると効果的です。

露出不足 → ＋方向に補正

適正な露出

露出過剰 → －方向に補正

ヒストグラムを表示する

ヒストグラムとは、画像の明るさをグラフ化したものです。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。グラフの表示が、右側に寄っているときは明るめの画像、左側に寄っているときは暗めの画像となります。中央に寄っているときは、その中間の明るさであることを表しています。
ヒストグラムを使うと明るさのレベルを確認しながら撮影することができます。再生時にもヒストグラム表示可能です。

1 モードダイヤルを「P」、「SCN」のいずれかにする

2 ボタンを押してヒストグラムを表示する

3 ヒストグラムを参考に、露出を調整する

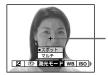
露出を＋方向に補正するとヒストグラムは右側にずれる

露出を−方向に補正するとヒストグラムは左側にずれる

- モードダイヤルを「」の位置にしてもヒストグラムは表示されますが、露出の調節はできません。
- 静止画のシングル画面での再生時（**別冊基本編** ➡ 29ページ）、クイックレビュー時（**別冊基本編** ➡ 21ページ）にも、ボタンでヒストグラムを表示することができます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  - −モードダイヤルを「SET UP」、「」にしたとき
  - −メニューを表示しているとき
  - −ブラケットモードで撮影した画像のクイックレビュー時（DSC-P10のみ）
  - −再生ズーム時
  - −「」で撮影した画像の再生時
- 下記の場合、⊗が表示されます。
  - −スマートズーム領域での撮影時
  - −画像サイズが4.5M（3:2）（DSC-P10）、2.8M（3:2）（DSC-P8）のとき
  - −静止画の回転時
- 撮影前のヒストグラムはそのときに画面に表示されている画像のヒストグラムをあらわしています。シャッターボタンを押す前と押した後では、ヒストグラムに差が生じます。その場合は、シングル画面での再生、またはクイックレビューで確認してください。
  特に下記の場合は大きく差が出ることがあります。
  - −フラッシュ発光時
  - −［P.エフェクト］が［ソラリ］に設定されている時
  - −シャッタースピードが遅いとき、または速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

測光モードを選ぶ

モードダイヤル：P/SCN/

様々な撮影状況や撮影目的に合わせた測光モードを選ぶことができます。

マルチパターン測光
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。
お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

スポット測光
逆光のときや、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮ります。
測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、（フォーカス）の［中央重点AF］を使うことをおすすめします（7ページ）。

1 **モードダイヤルを「P」、「SCN」、「」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［］（測光モード）、▲/▼で［マルチ］または［スポット］を選ぶ**

最適な露出を探す

– ブラケット（DSC-P10のみ）

モードダイヤル：/P/SCN

自動的に露出を変えて3枚の画像を連続して撮影します。露出補正量の設定は、適正露出を中心に1/3EVごとに＋1.0EVから－1.0EVの範囲で選択できます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする
SET UP画面が表示されます。

2 ▲/▼で［📷2］（カメラ2）、▶で［ブラケット設定］の順に選び、▶を押す

3 希望の露出振り幅を▲/▼で選び、中央の●を押す
±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらして撮影します。
±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらして撮影します。
±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらして撮影します。

4 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「SCN」のいずれかにする

5 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

6 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［ブラケット］を選ぶ

7 撮影する

通常撮影に戻すには

手順6で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- 撮影中は画面に画像が出ません。シャッターボタンを押す前に構図を決めておいてください。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは（11ページ）、EV補正値を中心に露出を変えて撮影します。
- 撮影の間隔は約0.5秒です。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した振り幅で撮影できない場合があります。

色合いを調節する

– ホワイトバランス

モードダイヤル：📷P/SCN/🎞

ホワイトバランスがオートに設定されているときは、撮影状況に応じてホワイトバランスが自動的に設定され、全体の色のバランスが調整されます。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

⚡WB（フラッシュ）
ホワイトバランスをフラッシュ光のみに合わせたい場合

☀（電球）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下

蛍光灯アイコン（蛍光灯）
蛍光灯の下で撮影する場合

☁（曇天）
くもり空のときに撮影する場合

☀（太陽光）
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没前後などを撮る場合

オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節する。

1 モードダイヤルを「P」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［WB］（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

自動調節に戻すには

手順3で［オート］を選びます。

- ちらつきのある蛍光灯下では、（蛍光灯）を選んでもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはホワイトバランスのマニュアルの設定が解除され、オートモードで撮影されます。（WB（フラッシュ）のときを除く。）

撮影のテクニック
被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常、本機は調節を自動で行っていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

フラッシュレベルを選ぶ

– フラッシュレベル

モードダイヤル：P/SCN

フラッシュを使って撮影するとき、フラッシュの発光量を調節することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［⚡±］（フラッシュレベル）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

明：フラッシュの発光量を通常より多くする。

標準：通常の設定

暗：フラッシュの発光量を通常より少なくする。

• モードダイヤルを「🎞」（クリップモーション）の位置にしても操作できます。

コマ送りの画像を撮る

– クリップモーション

モードダイヤル：🎞

静止画（GIFアニメ）を連続して撮影できます。ファイル容量が小さいので、ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

• クリップモーションの撮影に使用する色の数は256色以下に制限されています。これはGIF形式の記録の特性によるものです。このため、画像によっては画質が劣化することがあります。

ノーマル（160×120）
最大10コマのクリップモーションを撮影できます。ホームページなどでの利用に適しています。

モバイル（120×108）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。携帯電話などでの利用に適しています。

• モバイルモードは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が劣化します。

操作の前に

「SET UP」の［動画選択］を［クリップモーション］にしておきます（4、75ページ）。

1 モードダイヤルを「🎞」にする

2 ▦/🗑（画像サイズ）ボタンを押す

画像サイズが表示されます。

3 ▲/▼で希望の画像サイズを選ぶ

ノーマル、モバイルから選べます。

4 **1コマ目の撮影をする**

5 **次のコマを撮影する**

撮りたいコマ数だけシャッターボタンを押し、繰り返し撮影します。

6 **中央の●を押す**

全コマが“ メモリースティック ”に記録されます。

撮影した画像を途中で削除する

1 手順**4**または**5**で、◀（ ）を押す。
撮影した画像が順番に再生され、最後の画像で止まります。

2 / （削除）ボタンを押し、◀/▶で［最後のみ削除］または［全て削除］を選び、中央の●を押す。

3 ［削除］を選び、中央の●を押す。
手順**2**で［最後のみ削除］を選んだ場合は、手順**1**から**3**を繰り返すと、新しい画像から順に削除されていきます。

- 手順**6**を行わないと、すべての画像は“ メモリースティック ”に記録されません。
- クリップモーションの撮影枚数は67ページをご覧ください。
- クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。
- クリップモーションをインデックス画面で見ると、実際の画像と違って見える場合があります。
- 本機以外で作成したGIFファイルは、本機では正しく表示されない場合があります。

マルチ連写で画像を撮る

– マルチ連写

モードダイヤル：

一度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適しています。

操作の前に

「SET UP」の［動画選択］を［マルチ連写］にしておきます（4、75ページ）。

1 **モードダイヤルを「 」にする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［▪▪田］（インターバル）、▲/▼でコマ間の希望のインターバルを選ぶ**
コマ間のインターバルはメニュー画面の設定項目から選べます（4、73ページ）。

4 **撮影する**
16コマの画像を1枚の画像（画像サイズ1.2M）として記録します。

- マルチ連写で撮った画像を本機で再生するときは、28ページをご覧ください。
- マルチ連写の撮影枚数は68ページをご覧ください。
- フラッシュは使えません。
- マルチ連写では日付・時刻は挿入されません。

3枚連写／2枚連写する

– 3枚連写（DSC-P10）／2枚連写（DSC-P8）

モードダイヤル：📷/📷P/SCN

連続撮影するときに使います。シャッターボタンを押すと、3枚連続（DSC-P10）／2枚連続（DSC-P8）して撮影されます。

1 **モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「SCN」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［3枚連写］（DSC-P10）／［2枚連写］（DSC-P8）を選ぶ**

4 **撮影する**
「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- 連写中は液晶画面に画像が出ません。シャッターボタンを押す前に構図を決めておいてください。
- 撮影の間隔は約0.5秒です。

Eメール添付用の画像を撮る – Eメール

モードダイヤル：[camera icon]/[camera icon]P/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズ（320×240）の画像を撮影します。

別冊基本編 ➡ 17ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。

1 モードダイヤルを「[camera icon]」、「[camera icon]P」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選びます。

- 撮影した画像をEメールソフトウェアに添付する方法については、お使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- Eメールモードの撮影枚数は67ページをご覧ください。

画像に音声を記録する – ボイスメモ

モードダイヤル：[camera icon]/[camera icon]P/SCN

静止画の撮影時に、音声もいっしょに記録します。

1 モードダイヤルを「[camera icon]」、「[camera icon]P」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲で［ボイスメモ］を選ぶ

4 撮影する

シャッターボタンをポンと1回押すと
5秒間音声が記録されます。

シャッターボタンを押し続けると
押し続けている間、音声が記録されます（最長40秒間）。

通常撮影に戻すには

手順**3**で［通常撮影］を選びます。

- ボイスメモで撮影した画像を見るには、「液晶画面で動画を見る」（36ページ）と同じ操作を行ってください。
- ボイスメモの撮影枚数は67ページをご覧ください。

場面に合わせて撮る

– シーンセレクション

モードダイヤル：SCN

夜景、夜景と人物、風景を撮影するときや、水辺や雪景色を撮影するとき、あるいは打ち上げ花火や動きのあるシーンなどシャッタースピードで優先して撮影するときは、下記のモードを使用して効果を高めることもできます。

打ち上げ花火モード

無限遠にピントが設定され、打ち上げ花火を綺麗に撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- マクロ撮影はできません。
- フラッシュは使えません。
- EV補正値を設定してシャッタースピードを変えることができます（11ページ）。
- ホワイトバランスは設定できません。

高速シャッターモード

屋外などの明るい場所で動きのある被写体を撮影するときに使います。

- シャッタースピードが速くなるので、暗い場所で撮影すると画像が暗くなります。
- フラッシュは⚡（強制発光）または⊘（発光禁止）になります。

ビーチモード

海や湖畔などの場所で撮影するとき、水の青さを鮮やかに記録します。

- フラッシュは⚡（強制発光）または⊘（発光禁止）になります。

スノーモード

雪景色などの画面全体が白くなるような場所で撮影する場合、画面が沈みがちになるのを防ぎ、明るくなるようにします。

- フラッシュは⚡(強制発光) または⊘(発光禁止) になります。

風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

- マクロ撮影はできません。
- フラッシュは⚡(強制発光) または⊘(発光禁止) になります。

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際だたせた画像を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- フラッシュが強制発光します。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- マクロ撮影はできません。
- フラッシュは使えません。

1 モードダイヤルを「SCN」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［SCN］、▲/▼で希望のモードを選ぶ

シーンセレクションを解除するには

モードダイヤルを「SCN」以外にしてください。

- （打ち上げ花火モード）、（夜景＆人物モード）、（夜景モード）のいずれかに設定して、ブラケット（DSC-P10のみ）または3枚連写（DSC-P10）／2枚連写（DSC-P8）すると、シャッタースピードが速くなるため、意図した画像が撮れないことがあります。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを除去し、きれいな画像を得る機能です。
シャッタースピードが遅くなると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

シャッターボタンを深く押し込む。

↓

撮影中

このとき画面は黒くなります。

↓

処理中

「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

- 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

画像に特殊効果を加えて撮る – ピクチャーエフェクト

モードダイヤル：P/SCN/

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン（DSC-P8のみ）

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

1 **モードダイヤルを「P」、「SCN」、「」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ**

ピクチャーエフェクトを解除するには

手順3で［切］を選びます。

フォルダを選択して再生する – フォルダ

モードダイヤル：▶

再生したい画像の入っているフォルダを選択します。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［フォルダ］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で再生したいフォルダを表示させる

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

再生フォルダの選択を中止するには

手順5で［キャンセル］を選びます。

"メモリースティック"に複数のフォルダがあるときは

フォルダの内の最初／最後の画像に下記のマークが表示されます。

[↵]: 前のフォルダに移動できます。

[↳]: 次のフォルダに移動できます。

[↵↳]: 前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

シングル画面のとき

インデックス（9枚表示）画面のとき

インデックス（3枚表示）画面のとき

- 再生フォルダ内に画像がないときは、「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。
- 再生フォルダを選択しなくても最後に撮影した画像から再生できます。

静止画の一部を拡大する

画像を拡大する – 再生ズーム

モードダイヤル：▶

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 拡大したい画像を表示する

3 ズームTボタンを押して、画像を拡大する

4 ▲/▼/◀/▶を繰り返し押して、拡大したい部分を選ぶ

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ズームW/Tボタンで画像の大きさを調節する

拡大表示をやめるには

中央の●を押します。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は再生ズームできません。
- 拡大していない画像が表示されているときにズームWボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります（**別冊基本編** ➡ 30ページ）。
- クイックレビュー（**別冊基本編** ➡ 21ページ）で表示した画像も手順3から5の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する
– トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 ▶で［トリミング］を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録フォルダに記録されます。元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。

連続して再生する
– スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、中央の●を押す

▲/▼/◀/▶で下記の設定を選びます。

間隔設定

3秒／5秒／10秒／30秒／1分

再生画像

フォルダ内：選択しているフォルダ内の画像がすべて再生される。

全て：“ メモリースティック ”内の画像がすべて再生される。

繰り返し

入： 繰り返し再生される。

切： すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▼/▶で［スタート］を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選びます。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で［終了］を選び、●を押します。

スライドショー再生中に画像を送る／戻すには

▶（送り）または◀（戻し）を押します。

- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

– 回転

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 **モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［回転］を選び、中央の●を押す**

4 **▲で［↶ ↷］を選び、◀/▶で画像を回転させる**

5 **▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す**

回転を中止するには

手順4または5で［キャンセル］を選びます。

- プロテクトされている画像／動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

マルチ連写の画像を再生する

モードダイヤル：▶

マルチ連写で撮影した画像を順番に再生したり、一コマずつ再生したりすることができます。画像のチェックなどに便利です。

• パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。

• マルチ連写機能のないカメラで再生した場合、パソコンと同様に16分割された画像で表示されます。

連続して再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ
マルチ連写画像が順番に再生されます。

一時停止するには

中央の●ボタンを押します。解除するときは、もう一度中央の●を押します。表示されていたコマから連続再生が始まります。

一コマずつ再生する
– ジョグ再生

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ
マルチ連写画像が順番に再生されます。

3 コマ再生したい場所で中央の●を押す
コマ再生表示が表示されます。

4 ◀/▶で画像を送る
▶: 次のコマが表示されます。
押し続けるとコマが順送りされます。
◀: 前のコマが表示されます。
押し続けるとコマが逆送りされます。

連続再生に戻るには

手順4で中央の●を押します。表示されていたコマから連続再生が始まります。

撮影した画像を削除するには

マルチ連写で撮影した画像は希望のコマのみを削除することができません。削除を実行すると、16コマすべてが削除されます。

1 削除したいマルチ連写の画像を表示する。

2 ⊞／🗑（削除）ボタンを押す。

3 ［削除］を選び、中央の●を押す。
すべてのコマが削除されます。

画像を保護する

– プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。

シングル画面のとき

1. **モードダイヤルを「▶」にする**
2. **◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する**
3. MENU**ボタンを押す**
   メニューが表示されます。
4. **◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**
   表示されている画像にプロテクトがかかり、⊶（プロテクト）マークが付きます。

5. **他の画像にもプロテクトをかけたいときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示し、中央の●を押す**

プロテクト指定を解除するには

手順4または5でもう一度中央の●を押します。⊶マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1. **モードダイヤルを「▶」にして、ズーム**W**（インデックス）ボタンを**1**回押してインデックス（**9**枚表示）画面にする**
2. MENU**ボタンを押す**
   メニューが表示されます。
3. **◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**
4. **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**
5. **プロテクトをかけたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**
   選んだ画像に緑色の⊶マークが付きます。

6. **他の画像にもプロテクトをかけたいときは、手順5を繰り返す**

7 MENUボタンを押す

8 **▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

O┳マークが白色に変わり、選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順**4**で［キャンセル］を、または手順**8**で［終了］を選び、中央の●を押します。

プロテクト指定を解除するには

手順**5**でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押します。O┳マークがグレーに変わります。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、中央の●を押します。

フォルダ内のすべての画像をプロテクトするには

手順**4**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［入］を選び、中央の●を押します。

フォルダ内のすべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順**4**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押します。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームW（インデックス）ボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示する**

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 **▲/▼で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**

画面中央の画像にプロテクトがかかり、O┳マークが付きます。

5 **他の画像にもプロテクトをかけたいときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す**

静止画を編集する

プロテクト指定を解除するには

手順4でプロテクトを解除したい画像を選び、中央の●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。

画像のサイズを変える

– リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
5.0M（DSC-P10）、3.1M、2.0M（DSC-P8）、1.2M、VGAのサイズに変えられます。
リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶でサイズを変えたい画像を表示する**

3 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

4 **◀/▶で［リサイズ］を選び、中央の●を押す**

5 **▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す**
リサイズした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選びます。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

プリント予約をする

– プリント予約マーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像をあらかじめ本機で予約することができます。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店やプリンターで画像をプリントするときなどに便利な機能です。

- 動画（MPEGムービー）、クリップモーションで撮影した画像はプリント予約マークは付けられません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像にプリント予約マークが付きます。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリント予約マークが付きます。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプリント予約したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［DPOF］を選び、中央の●を押す

表示されている画像に 🖨✓（プリント予約）マークが付きます。

5 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、◀/▶でプリント予約したい画像を表示し、中央の●を押す

プリント予約マークを消すには

手順4または5でもう一度中央の●を押します。🖨✓ マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームW（インデックス）ボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ▶で［DPOF］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

- ［フォルダ内全て］で、🖨✓ マークを付けることはできません。

5 プリント予約したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

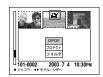
選んだ画像に緑色の 🖨✓ マークが付きます。

6 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

マークが白色に変わり、設定が完了します。

プリント予約マークを消すには

手順5で マークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押します。

フォルダ内のすべての画像のプリント予約マークを消すには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押します。

プリント予約マークを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または、手順8で［終了］を選びます。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームW（インデックス）ボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする

2 ◀/▶でプリント予約したい画像を中央に表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▲で［DPOF］を選び、中央の●を押す

画面中央の画像に マークが付きます。

5 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、◀/▶でプリント予約したい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す

プリント予約マークを消すには

手順4でもう一度中央の●を押します。 マークが消えます。 マークを消したいすべての画像について繰り返します。

動画を撮る

モードダイヤル：

動画を撮影できます。

操作の前に

「SET UP」の［動画選択］を［MPEG ムービー］にしておきます（4、75ページ）。

1 モードダイヤルを「」にする

2 /(画像サイズ）ボタンを押す

画像サイズが表示されます。

3 ▲/▼で希望のサイズを選ぶ

640（VGA)、160（Mail）から選べます。

各サイズによる記録時間については、67ページをご覧ください。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、動画と音声の記録が始まります。

• “メモリースティック”の容量がいっぱいになると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう一度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

動画には記録されません。

ボタンを押すたびに、画面表示オフ→液晶画面オフ→画面表示オンの順で変わります。

ヒストグラムは表示されません。

表示される項目について詳しくは、86ページをご覧ください。

近接（マクロ）撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 23ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 24ページの手順に従ってください。

- 撮影するときは、マイク（**別冊基本編** ➡ 6ページ）に指が触れないようにご注意ください。
- フラッシュは使えません。
- 動画では、日付・時刻は挿入できません。
- 動画撮影中にはズーム倍率を変更することはできません。

液晶画面で動画を見る

モードダイヤル：▶

本機の液晶画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

画像サイズ［160（Mail）］で撮影した動画はひとまわり小さく表示されます。

画像サイズ［640（VGA）］で撮影した動画は液晶画面いっぱいに表示されます。

3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が液晶画面に表示されます。

再生を止めるには

中央の●を押します。

音量を調節するには

▲/▼で調節します。

早送り／巻き戻しをするには

再生中に▶（送り）または◀（戻し）を押します。
通常の再生に戻るには、中央の●を押します。

動画再生中の画面上の表示は

ボタンを押すたびに、画面表示オフ→液晶画面オフ→画面表示オンの順で変わります。
ヒストグラムは表示されません。
表示される項目について詳しくは、86ページをご覧ください。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** ➡ 31ページ）。
- 当社従来モデルで撮影した動画を再生すると、ひとまわり小さく表示される場合があります。

動画を削除する

モードダイヤル：▶

不要な動画を削除します。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で削除したい動画を表示する

3 / (削除) ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

4 ▲で［削除］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が消えると、動画が削除されます。

5 他の動画も削除するときは、◀/▶で削除したい動画を表示し、手順4を繰り返す

削除を中止するには

手順4または5で［終了］を選びます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームW（インデックス）ボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 / (削除) ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

3 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

4 削除したい動画を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ動画に (削除) マークが付きます。

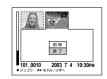
この時点ではまだ削除されていません。

5 他の動画も削除するときは、手順4を繰り返す

動画を撮る

6 ⊞/🗑（削除）ボタンを押す

7 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が消えると、動画が削除されます。

削除を中止するには

手順**3**または**7**で［終了］を選びます。

フォルダ内のすべての動画を削除するには

手順**3**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［実行］を選び、中央の●を押します。削除を中止するときは、◀で［キャンセル］を選び、中央の●を押します。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームW（インデックス）ボタンを2回押してインデックス（3枚表示）画面にする

2 ◀/▶で削除したい動画を中央に表示する

3 ⊞/🗑（削除）ボタンを押す

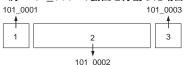
この時点ではまだ削除されていません。

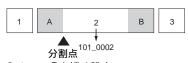
4 ▲で［削除］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が消えると、動画が削除されます。

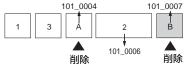
削除を中止するには

手順**4**で［終了］を選びます。

動画を編集する

モードダイヤル：▶

撮影した動画（MPEGムービー）を分割したり、不要な部分を削除することができます。“ メモリースティック ”の容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。

分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割した動画は、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号を割り振られ、選択している記録フォルダに記録されます。分割する前の元の動画は削除され、そのファイル番号は欠番になります。

〈例〉101_0002の動画を分割した場合

1 シーンAを切り離す

2 シーンBを切り離す

3 シーンAとBが不要なら削除する

4 必要なシーンだけが残る

動画を分割する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で分割したい動画を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▶で［分割］を選び、中央の●を押す。▲で［実行］を選び、中央の●を押す

動画が再生されます。

5 分割する位置を決める

分割したい位置で、中央の●を押します。

分割する位置を微調整したいときは、[◀II/II▶]（コマ送り/コマ戻し）を選び、◀/▶で微調整します。
分割する場所を選びなおしたいときは、[キャンセル] を選びます。
動画の再生が再開します。

6 分割する位置を決めたら、▲/▼で[実行] を選び、中央の●を押す

7 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

動画が分割されます。

分割を中止するには

手順5または7で［終了］を選びます。再生画面に戻ります。

- 下記の動画は分割できません。
  - クリップモーション
  - マルチ連写
  - 静止画
  - 分割できる充分な長さのない動画
  - プロテクトされている動画
- 一度分割した動画を元に戻すことはできません。
- 分割すると、元の動画は削除されます。
- 分割された動画は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

1 動画の不要な部分を分割する（39ページ）

2 削除したい部分の動画を表示する

3 / (削除) ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

4 ▲で［削除］を選び、中央の●を押す

表示されている動画が削除されます。

「Image Transfer」をインストールする

「Image Transfer」はWindowsのみに対応しています。
本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Image Transfer」（イメージトランスファー）を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンに簡単に取り込むことができます。

- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- 「Image Transfer」をお使いになるためには、USBドライバが必要です。お使いのパソコンに必要なドライバがインストールされていないときは、ドライバのインストールをうながす画面が表示されます。このときは、画面の指示に従って操作してください（**別冊基本編** ➡ 39ページ）。

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。

機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 「Cyber-shot」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

インストールメニューが表示されます。

4 インストールメニュー画面の中の「Image Transfer」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

5 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

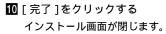
「Image Transfer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

6 ［次へ］をクリックする

「使用許諾契約」画面が表示されたら、［はい］をクリックする。

ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよくご確認ください。同意された場合は、インストールの手順に進みます。「情報」画面が表示されます。

7 ［次へ］をクリックする

8 「インストール先の選択」画面でインストールするフォルダを選び、［次へ］をクリックする。「プログラムフォルダの選択」画面でプログラムフォルダを選び、［次へ］をクリックする

9 「カメラなどがつながれたらImage Transfer を自動的に起動します。」の「はい」がチェックされているのを確認し、［次へ］をクリックする

「Image Transfer」のインストールが始まります。

インストールが終わると、「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます。

10 ［完了］をクリックする

インストール画面が閉じます。

「Image Transfer」で画像をコピーする

- 通常は「マイドキュメント」フォルダ内に「Image Transfer」、「日付」フォルダが作成され、その中に画像ファイルがすべてコピーされます。
- 「Image Transfer」の設定は設定画面で変更できます（44ページ）。
- 「ImageMixer」（45ページ）がインストールされていると、「Image Transfer」で画像をコピーしたあとに「ImageMixer」が自動起動し、画像一覧が表示されます。

別冊基本編 ➡ 42～43ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつないでください。

「Image Transfer」が自動起動し、“メモリースティック”内の画像がコピーされます。

- Windows XPをお使いの場合は、44ページをご覧ください。
- 「Image Transfer」が自動起動しない場合は、タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンをダブルクリックして起動してください。

ここをダブルクリック

CAPS KANA
9:42

Windows XPの場合

Windows XPでは、自動再生ウィザードが起動するように設定されています。自動再生ウィザードを起動しないようにするには、下記の手順で設定を解除してください。

1 本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続する（**別冊基本編** ➞ 43ページ）

2 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

3 ［Sony MemoryStick］を右クリックし、［プロパティ］をクリックする

4 設定を解除する

① ［自動再生］をクリックする

② 「内容の種類」を［画像］にする

③ 「動作」の［実行する動作を選択］をチェックして［何もしない］を選び、［適用］をクリックする

④ 手順②で［ビデオファイル］と［混在したコンテンツ］を選び、手順③を繰り返す

⑤ ［OK］をクリックする
「プロパティ」画面が閉じます。

「Image Transfer」の設定を変更する

「Image Transfer」の設定を変更することができます。
タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンを右クリックし［設定画面を開く］を選んでください。
設定できるのは、「基本の設定」、「コピーの設定」、「削除の設定」です。

「Image Transfer」が起動すると、下記の画面が表示されます。

「Image Transfer」起動時に［設定］を選んだ場合は、「基本の設定」のみ変更できます。

「ImageMixer」をインストールする

「ImageMixer」はWindows、Macintosh（Mac OS Xを除く）ともに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「ImageMixer Ver.1.5 for Sony（イメージミキサーバージョン1.5フォーソニー）」を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンで手軽に楽しめます。

- パソコンの使用動作環境について詳しくは、CD-ROMに付属の取扱説明書をご覧ください。
- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- Windowsをお使いの方は「Image Transfer」（41ページ）で簡単にパソコンに画像を取り込むことができます。本機からパソコンへ画像のコピーのみ行うという方に最適です。

ImageMixerに関するお問い合わせ
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月〜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.imagemixer.com

Windowsの場合

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。

機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 「Cyber-shot」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

インストールメニューが表示されます。

4 インストールメニュー画面の中の「ImageMixer」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

5 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

「ImageMixer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

6 画面の指示に従って操作する
続けて指示に従って「ImageMixer」と「WinCDR Lite for Data」のインストールを行う。

インストール完了後、DirectXの「情報」画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールし、再起動してください。その後、手順8に進んでください。

7 画面の指示に従って再起動する。

8 パソコンからCD-ROMを取り出す

Macintoshの場合

1 パソコンの電源を入れる。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
機種選択画面が表示されます。

3 機種選択画面の中の「Cyber-shot」をクリックする。

4 インストールメニュー画面の中の「ImageMixer」をクリックする。

5 リストボックスから［日本語］を選択し、［Install］ボタンをクリックする。

6 画面の指示に従って操作する。
インストール画面の「完了」ボタンをクリックしてインストール画面を閉じてください。

7 [ボタン]をクリックしてタイトル画面を閉じる。

8 パソコンからCD-ROMを取り出す。

「ImageMixer」で画像を取り込む

「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」を使って、本機からパソコンに画像を取り込みます。

操作の前に

別冊基本編 ➡ 42〜43ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつなぎ、本機を準備してください。

- 「ImageMixer」の使いかたについて詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Windowsの場合

ここでは、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーします。

1 「ImageMixer」を起動する

デスクトップ画面上の（ImageMixer Ver.1.5 for Sony）をダブルクリックします。
「ImageMixer」が起動し、メイン画面が表示されます。

2 をクリックする

画像を取り込むための画面が表示されます。

3 画像をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。
" メモリースティック "内の画像が一覧表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

パソコンで楽しむ

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、表示される「フォルダの参照」画面で［マイドキュメント］をクリックして、［OK］をクリックする。

⑤ OK をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

Macintoshの場合

1 「ImageMixer」を起動する。

2 をクリックする。

3 画像をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。
“ メモリースティック ”内の画像が一覧表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、画像の保存先を選び、［OK］をクリックする。

⑤ OK をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

「ImageMixer」で画像を見る

43、47ページでパソコンに取り込んだ画像を「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」を使って見ます。

- 「ImageMixer」を使うと、取り込んだ画像を編集することもできます。詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Windowsの場合

1 をクリックする

画像を見るための画面が表示されます。

2 表示したい画像をダブルクリックする

選んだ画像が表示されます。

動画を再生するには ►、再生を停止するには ॥ をクリックします。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

Macintoshの場合

1 をクリックする。

2 表示したい画像をダブルクリックする。
選んだ画像が表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

「ImageMixer」で画像を印刷する

「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」で開いた画像をプリンタで印刷します。
あらかじめプリンタとパソコンを接続し、両方の機器の電源を入れておきます。
プリンタの接続や設定などについて詳しくは、プリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 動画の場合は先頭のシーンが印刷の対象となります。

Windowsの場合

1 画像を表示する

49ページの手順1の操作を行ってください。

2 印刷したい画像をクリックする

3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする

「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する

お好みに応じて設定してください。

通常は画面下の をクリックします。

5 用紙の設定をする

① 画面右下の をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

② 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

6 印刷する

① 画面右下の（プリンタアイコン）をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

② ［OK］をクリックする。

画像が印刷されます。

印刷できないときは

プリンタの接続や設定が正しいかどうか確認してください。詳しくは、お使いのプリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

• 印刷する画像サイズ、パソコン環境などによっては、印刷に時間がかかることがあります。

Macintoshの場合

1 画像を表示する。

2 印刷したい画像をクリックする。

3 （アイコン）をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする。
「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する。
通常は画面下の（アイコン）をクリックします。

5 （アイコン）をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

6 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

7 （プリンタアイコン）をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

8 ［プリント］をクリックする。
画像が印刷されます。

ビデオCDを作成する

ビデオCDを作成することができます。作成したビデオCDはビデオCD対応のDVDプレーヤーで再生できます。パソコンをお使いの場合、ビデオCD対応のアプリケーションソフトで再生できます。

1 「ImageMixer」を起動する

2 （アイコン）をクリックする

ビデオディスク作成モードが起動します。

3 ファイルやアルバムをメニュー画面にドラッグ&ドロップする

メニュー画面に画像が追加されます。

4 をクリックする

プレビューを行うこともできます。

5 をクリックする

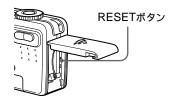
ディスク作成のダイアログが表示されます。

6 CD-Rドライブに新しいCD-Rを入れて［OK］ボタンをクリックする

ディスクの作成が始まります。

- CD-RWはお使いになれません。
- ビデオCDの作成にはCD-Rドライブが必要です。

Macintosh版についてのご注意

- ビデオCDのライティングを行うにはRoxio社のToast（別売り）が必要です。
- プレビューの表示で動画ファイルの再生時間が短くなることがあります。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 53～65ページの項目をチェックし、本機を点検する

液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。66ページをご覧ください。

2 バッテリー／"メモリースティック"カバーの内側にあるRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する
http://www.sony.co.jp/support-di/

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーが充電できない。	• 本機の電源が入っている。	→ 本機の電源を切る（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	• 正しく入れていない。	→ バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを下側に押しながら入れる（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点滅する。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • バッテリーが故障している。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。 → テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

症状	原因	処置
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯していない。	• ACアダプターがはずれている。 • バッテリーが正しく取り付けられていない。 • 充電が完了している。	→ きちんと接続し直す（**別冊基本編** → 8ページ）。 → バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 —
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 • 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。 • バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（82ページ）。	— → バッテリーを使い切った後充電すると、残量表示機能が正しくなる（**別冊基本編** → 9ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
バッテリーの消耗が早い。	• 温度が極端に低いところで撮影/再生している。 • DCプラグが汚れていて充電が不充分。 • バッテリーそのものの寿命（82ページ）。	— → ACアダプターの端子を綿棒などで掃除してから充電する（**別冊基本編** → 8ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
電源が入らない。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • ACアダプターがはずれている。 • バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（82ページ）。	→ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 → きちんと接続し直す（**別冊基本編** → 11ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
電源が途中で切れる。	• 操作しない状態が90秒以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる（パワーセーブ［切］時は約3分）。（**別冊基本編** → 10ページ） • バッテリーが消耗している。	→ 電源を入れ直すか、ACアダプターを使う（**別冊基本編** → 11ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** → 8ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	• 前回使用時、液晶画面をオフにして電源を切った。	→ 液晶画面をオンにする（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
液晶画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「📷」または「📷P」、「SCN」、「🎞」になっていない。	→ モードダイヤルを「📷」または「📷P」、「SCN」、「🎞」にする（35ページ、**別冊基本編** ➡ 19ページ）。
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションの🎆（打ち上げ花火モード）、🏔（風景モード）、🌙（夜景モード）が選ばれている。 • フォーカスプリセットになっている。	→ マクロ撮影モードにする。マクロ撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影する（**別冊基本編** ➡ 23ページ）。 → 🎆（打ち上げ花火モード）、🏔（風景モード）または🌙（夜景モード）以外にする（20ページ）。 → オートフォーカスに戻す（10ページ）。
ズームができない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はズーム倍率を変更できない。	—
スマートズームができない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はできない。 •「SET UP」の［スマートズーム］が［切］になっている。 • 液晶画面がオフになっている。 • 画像サイズが［5.0M］または［4.5M（3:2）］（DSC-P10）、［3.1M］または［2.8M（3:2）］（DSC-P8）になっている。	— →［入］にする（4、75ページ）。 → 液晶画面をオンにする（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。 → 画像サイズを［5.0M］または［4.5M（3:2）］（DSC-P10）、［3.1M］または［2.8M（3:2）］（DSC-P8）以外にする（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 液晶画面が暗い。	→ 露出を補正する（11ページ）。 → 画面の明るさを調節する（4、77ページ）。
画像が明るい。	• 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 • 液晶画面が明るい。	→ 露出を補正する（11ページ）。 → 画面の明るさを調節する（4、77ページ）。

症状	原因	処置
画像が白黒になる。	• ピクチャーエフェクトがモノトーンモードになっている（DSC-P8のみ）。	→ 解除する（23ページ）。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミアという現象。	→ 故障ではない。
暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つ。	• 暗い場所でも確認できるように、液晶画面を一時的に明るくする機能が働いている。	→ 撮影される画像には影響ありません。
撮影できない。	• “ メモリースティック ”が入っていない。	→“ メモリースティック ”を入れる（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
	• “ メモリースティック ”の容量がない。	→“ メモリースティック ”内の画像を削除する、またはフォーマットをする。 →“ メモリースティック ”を交換する。
	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 解除する（80ページ）。
	• フラッシュ充電中は撮影できない。	—
	• 静止画を撮影するとき、モードダイヤルが「📷」または「📷P」、「SCN」になっていない。	→ モードダイヤルを「📷」または「📷P」、「SCN」にする（7、20ページ、**別冊基本編** ➡ 19ページ）。
	• 動画を撮影するとき、モードダイヤルが「🎞」になっていない。	→ モードダイヤルを「🎞」にする（35ページ）。

症状	原因	処置
フラッシュ撮影ができない。	• モードダイヤルが「▶」または「SET UP」、「🎞」になっている。 • 設定が(発光禁止)になっている。 • 静止画を撮影時、シーンセレクションの(打ち上げ花火モード)または(夜景モード)が選ばれている。 • 「SET UP」の[動画選択]が[MPEGムービー]、[マルチ連写]になっている。 • シーンセレクションの(高速シャッターモード)または(ビーチモード)、(スノーモード)、(風景モード)が選ばれている。 • [Mode](撮影モード)が[3枚連写](DSC-P10)/[2枚連写](DSC-P8)または[ブラケット](DSC-P10のみ)になっている。	→ モードダイヤルを「📷」または「📷P」、「SCN」にする(7、20ページ、**別冊基本編** ➞ 19ページ)。 → オート(表示なし)または⚡(強制発光)、⚡SL(スローシンクロ)にする(**別冊基本編** ➞ 25ページ)。 → 解除する(20ページ)。 → [クリップモーション]にする(4、75ページ)。 → ⚡(強制発光)にする(**別冊基本編** ➞ 25ページ)。 → それ以外にする。
マクロ撮影ができない。	• 静止画撮影時、シーンセレクションの(打ち上げ花火モード)、(風景モード)、(夜景モード)が選ばれている。	→ 解除する(20ページ)。
被写体の目が赤く写る。	—	→ 赤目軽減モードにする(**別冊基本編** ➞ 26ページ)。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	→ 日付・時刻を合わせる(77ページ、**別冊基本編** ➞ 13ページ)。
シャッターを半押しするとF値、シャッタースピードが点滅する。	• 露出が合っていない。	→ 露出を補正する(11ページ)。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	• モードダイヤルが「▶」になっていない。 • パソコンでフォルダ／ファイルの名前を変更したり、画像を加工したものは本機で再生できない。 • USBモードになっている。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** ➡ 28ページ）。 — → USB接続を終了する（**別冊基本編** ➡ 49ページ）。
表示直後に再生画像が粗い。	—	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	•「SET UP」の［ビデオ出力信号］が［PAL］になっている。 • 接続が正しくない。	→［NTSC］にする（77ページ）。 → 接続を確認する（**別冊基本編** ➡ 31ページ）。
パソコンで再生できない。	—	→ 60ページをご覧ください。
動画再生中、ピロピロという音がする。	• 動画撮影中にオートフォーカスが働いている音。	→ 故障ではない。フォーカスプリセット で撮影する（10ページ）。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされている。 • “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	➔ 画像のプロテクトを解除する（30ページ）。 ➔ 誤消去防止スイッチを解除する（80ページ）。
誤って消してしまった。	• 一度削除した画像は元に戻せない。	➔ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（30ページ）。 ➔“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤消去を防げます（80ページ）。
リサイズができない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像／マルチ連写で撮影した画像はリサイズできない。	—
プリント予約マークが付かない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像にはプリント予約マークを付けられない。	—
動画を分割できない。	• 分割できる充分な長さのない動画（MPEGムービー）は分割できない。 • プロテクトされている動画（MPEGムービー）、クリップモーション画像、マルチ連写で撮影した画像、静止画は分割できない。	— —

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	→ 「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** → 38ページ）。
USB**ドライバをインストールできない。**	—	→ Windows 2000を使用している場合は、Administrator（管理者権限）でログオンする（**別冊基本編** → 39ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源が入っていない。	→ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** → 12ページ）。
	• バッテリー残量が少ない。	→ ACアダプターを使用する（**別冊基本編** → 11ページ）。
	• 付属のUSBケーブルを使っていない。	→ 付属のUSBケーブルを使う（**別冊基本編** → 43ページ）。
	• USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	→ 一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、［USBモード］になっていることを確認する（**別冊基本編** → 43ページ）。
	• 「SET UP」の［USB接続］が［PTP］になっている。	→ ［標準］にする（4、77ページ）。
	• パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	→ キーボード／マウス以外は取りはずす。
	• 本機がパソコン本体に直接接続されていない。	→ USBハブ経由などで接続せずに本機とパソコンを直接接続する。
	• USBドライバがインストールされていない。	→ USBドライバをインストールする（**別冊基本編** → 39ページ）。
	• 付属のCD-ROMから「USBドライバ」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。	→ 正しく認識されなかったデバイスを削除してから、USBドライバをインストールする（**別冊基本編** → 39、46ページ）。

症状	原因	処置
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンの接続が正しくない。 • お使いのOSによって手順が違う。 — —	→ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（**別冊基本編** ➞ 43ページ）。 → お使いのOSに対応した手順でコピーする（**別冊基本編** ➞ 44、47、52ページ）。 →「Image Transfer」ソフトウェアをお使いの場合は、43ページをご覧ください。 →「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、47ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。
USB接続をしたときに「Image Transfer」が自動起動しない。	— —	→「Image Transfer」を「自動的に起動する」に設定してください（44ページ）。 → パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください（43ページ）。
画像を再生できない。	— —	→「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、49ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。 → パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	•“ メモリースティック ”から直接再生している。	→ パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（43、47ページ）。
画像を印刷できない。	— —	→ お使いのプリンターの設定を確認してください。 → 50ページをご覧になるか、「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
付属のCD-ROMをパソコンにセットするとエラーメッセージが表示される。	• パソコンのディスプレイの設定が正しくない。	→ パソコンのディスプレイの設定を以下のように設定する。 Windowsの場合： 800×600ドット以上 High Color（16 bitカラー、65000色）以上 Macintoshの場合：800×600ドット以上 32000色モード以上

“ メモリースティック ”

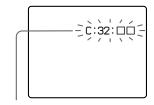
症状	原因	処置
本機に入らない。	• “ メモリースティック ”を入れる向きが違っている。	→ 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ━━ 15ページ）。
記録できない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 誤消去防止を解除する（80ページ）。
	• “ メモリースティック ”の容量がいっぱいになっている。	→ 不要な画像を削除する（37ページ、**別冊基本編** ━━ 32ページ）。
フォーマットできない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 誤消去防止を解除する（80ページ）。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、“ メモリースティック ”内のデータはすべて消去され、元に戻せない。	→“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます（80ページ）。

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	• “インフォリチウム”バッテリーを使っていない。 • バッテリーが残り少ない（表示が出る）。 • ACアダプターがしっかり差し込まれていない。	→ バッテリーは必ず“インフォリチウム”バッテリーを使う（82ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。 → DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➡ 11ページ）。
電源が入っているのに操作できない。	• 内部システムの誤動作。	→ 電源を取りはずし、約1分後再び電源をつなぎ、本機の電源を入れる。これでも操作できないときは、バッテリー／“メモリースティック”カバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除される。）
液晶画面上の表示が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（86〜89ページ）。
レンズがくもる。	• 結露している。	→ 電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（79ページ）。
長時間使用すると、本機が熱くなる。	—	→ 故障ではない。
電源を切ってもレンズが収納されない。	• バッテリーが消耗している。	→ 充電されたバッテリーを取り付けるか、ACアダプターを使用する（**別冊基本編** ➡ 8、11ページ）。

警告表示について

液晶画面には次のような表示が出ることがあります。

表示	意味／処置
メモリースティックがありません	•“ メモリースティック ”を入れてください（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
システムエラー	• 電源を入れ直してください（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
メモリースティックエラー	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（80ページ）。 •“ メモリースティック ”が壊れている。“ メモリースティック ”の端子部が汚れている。 •“ メモリースティック ”を正しく入れてください（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
非対応のメモリースティックです	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（80ページ）。
フォーマットエラー	•“ メモリースティック ”が正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
メモリースティックがロックされています	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（80ページ）。
メモリースティックの残量がありません	•“ メモリースティック ”の空き容量が足りないので、記録ができない。不要な画像を削除してください（37ページ、**別冊基本編** ➡ 32ページ）。
このフォルダにはファイルがありません	• フォルダ内に画像が記録されていない。
フォルダエラー	• 上3桁の番号が同じフォルダが“ メモリースティック ”内にある（例：123MSDCFと123ABCDE）。別のフォルダを選択するかフォルダを作成してください。
これ以上フォルダ作成できません	• 上3桁の番号が「999」のフォルダが“ メモリースティック ”内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

表示	意味／処置
記録できません	• 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択してください（5ページ）。
ファイルエラー	• 画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	• 画像にプロテクトがかけられている。プロテクトを解除してください（30ページ）。
“インフォリチウム”バッテリーを使ってください	• “インフォリチウム”対応以外のバッテリーを使っている。
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
分割できません	• 分割できる充分な長さがない。 • 動画（MPEGムービー）ではない。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** ➡ 8ページ）。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
	• 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使ってください。または、三脚などでカメラをしっかりと固定してください。
電源を入れ直してください	• レンズの誤動作。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	電源を入れ直す（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	“ メモリースティック ”を数回抜き差しする。
	フォーマットしていない“ メモリースティック ”を入れた。	フォーマットする（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
	本機では使えない“ メモリースティック ”を入れた。またはデータが壊れている。	“ メモリースティック ”を交換する（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタン（53ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があります。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際、表示の5桁のすべてをお知らせください。

記録枚数／時間について

“ メモリースティック ”の容量、画像サイズ、画質によって記録できる枚数、時間が異なります。
表を参考に用途に応じて“ メモリースティック ”をお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については**別冊基本編** → 18ページをご覧ください。
- 撮影残枚数が9999枚より多いとき、「>9999」と表示されます。

Eメール

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
5.0M（DSC-P10）	6 (11)	12 (23)	25 (47)	51 (95)	91 (170)	186 (345)	380 (705)
4.5M (3:2)（DSC-P10）	6 (11)	12 (23)	25 (47)	51 (95)	91 (170)	186 (345)	380 (705)
3.1M	10 (18)	20 (36)	40 (73)	81 (146)	145 (255)	296 (518)	604 (1058)
2.8M (3:2)（DSC-P8）	10 (18)	20 (36)	40 (73)	81 (146)	145 (255)	296 (518)	604 (1058)
2.0M（DSC-P8）	16 (29)	32 (59)	65 (119)	131 (239)	230 (420)	468 (854)	956 (1743)
1.2M	24 (44)	49 (89)	98 (179)	197 (359)	340 (595)	691 (1210)	1411 (2470)
VGA	88 (194)	178 (392)	358 (788)	718 (1580)	1190 (2381)	2420 (4841)	4940 (9881)

ボイスメモ

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
5.0M（DSC-P10）	6 (11)	12 (22)	25 (45)	50 (91)	90 (166)	183 (337)	375 (689)
4.5M (3:2)（DSC-P10）	6 (11)	12 (22)	25 (45)	50 (91)	90 (166)	183 (337)	375 (689)
3.1M	9 (17)	19 (34)	39 (69)	79 (138)	142 (246)	290 (500)	592 (1022)
2.8M (3:2)（DSC-P8）	9 (17)	19 (34)	39 (69)	79 (138)	142 (246)	290 (500)	592 (1022)
2.0M（DSC-P8）	15 (26)	31 (54)	62 (109)	125 (219)	223 (396)	453 (806)	926 (1646)
1.2M	22 (38)	45 (78)	91 (157)	183 (316)	324 (549)	660 (1117)	1347 (2280)
VGA	69 (121)	140 (245)	281 (492)	564 (987)	1020 (1785)	2074 (3630)	4234 (7410)

クリップモーション

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
ノーマル	88	178	358	718	1190	2420	4940
モバイル	486	982	1971	3951	3571	7261	14821

ノーマル：10コマで撮影した場合　　モバイル：2コマで撮影した場合

MPEGムービー（単位：秒）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
640(VGA)	42	87	176	354	641	1304	2663
160(Mail)	673	1363	2740	5494	9935	20203	41239

マルチ連写（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
1.2M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)

メニュー項目について

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。
画面には、設定可能な項目のみが表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」のとき

	設定	意味
Mode（撮影モード）	ボイスメモ	ー JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（19ページ）。
	Eメール	ー 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（19ページ）。
	ブラケット（DSC-P10のみ）	ー 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（13ページ）。
	3枚連写（DSC-P10）／2枚連写（DSC-P8）	ー 3枚連写／2枚連写する（18ページ）。
	■通常撮影	ー 通常の撮影をする。

モードダイヤルが「📷P」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN	🎆／🏃／🏝／⛄／🏔／👤🌙／■🌙	シーンセレクションを設定する（20ページ）。（「📷P」のときは設定できません。）
☑(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／−0.3EV／−0.7EV／−1.0EV／−1.3EV／−1.7EV／−2.0EV	露出を補正する（11ページ）。

項目	設定	意味
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。
（測光モード）	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（14ページ）。測光枠を設定する。
WB（ホワイトバランス）	WB／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（14ページ）。
ISO	400／200／100／■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい数字を、高画質を得るには小さい数字を選ぶ。（「SCN」のときは設定できません。）
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（5ページ）。
Mode（撮影モード）	ボイスメモ Eメール ブラケット（DSC-P10のみ） 3枚連写（DSC-P10）／2枚連写（DSC-P8） ■通常撮影	– JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（19ページ）。 – 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（19ページ）。 – 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（13ページ）。 – 3枚連写／2枚連写する（18ページ）。 – 通常の撮影をする。
±（フラッシュレベル）	明／■標準／暗	フラッシュの発光量を調節する（15ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／モノトーン（DSC-P8のみ）／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（23ページ）。
（シャープネス）	＋／■標準／–	画像のシャープネスを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）
（彩度）	＋／■標準／–	画像の彩度を調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）
（コントラスト）	＋／■標準／–	画像のコントラストを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。（「SCN」のときは設定できません。）

モードダイヤルが「🎞」のとき（「SET UP」の［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）

項目	設定	意味
☒（EV）	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／−0.3EV／−0.7EV／−1.0EV／−1.3EV／−1.7EV／−2.0EV	露出を補正する（11ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。
（測光モード）	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（14ページ）。
WB（**ホワイトバランス**）	WB／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（14ページ）。
PFX（P.**エフェクト**）	ソラリ／モノトーン（DSC-P8のみ）／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（23ページ）。

その他

モードダイヤルが「🎞」のとき（「SET UP」の［動画選択］が［クリップモーション］のとき）

項目	設定	意味
(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／−0.3EV／−0.7EV／−1.0EV／−1.3EV／−1.7EV／−2.0EV	露出を補正する（11ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。
（測光モード）	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（14ページ）。
WB（ホワイトバランス）	WB／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（14ページ）。
±（フラッシュレベル）	明／■標準／暗	フラッシュの発光量を調節する（15ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／モノトーン（DSC-P8のみ）／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（23ページ）。

モードダイヤルが「　」のとき（「SET UP」の［動画選択］が［マルチ連写］のとき）

項目	設定	意味
(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（11ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。
（測光モード）	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（14ページ）。
WB **（ホワイトバランス）**	WB／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（14ページ）。
（インターバル）	1/7.5／1/15／■1/30（NTSC） 1/6.3／1/12.5／■1/25（PAL）	– NTSCモードでマルチ連写のシャッター間隔を設定する。 – PALモードでマルチ連写のシャッター間隔を設定する。 • 「SET UP」の［ビデオ出力信号］の設定によって、選択できるシャッター間隔が変わります（77ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（5ページ）。
PFX（P.**エフェクト）**	ソラリ／モノトーン（DSC-P8のみ）／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（23ページ）。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
フォルダ	実行／キャンセル	再生したい画像の入っているフォルダを選ぶ（24ページ）。
プロテクト	—	画像に誤消去防止指定をする（30ページ）。
DPOF	—	プリント予約マークを付けたい／消したい静止画を選ぶ（33ページ）。
スライドショー	間隔設定 再生画像 繰り返し スタート キャンセル	– スライドショーの間隔を設定する。（シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分 – スライドショーを再生する範囲を設定する。 ■フォルダ内／全て – スライドショーを繰り返し再生する。 ■入／切 – スライドショーを実行する。 – スライドショーの設定および実行を中止する。
リサイズ	5.0M（DSC-P10のみ）／3.1M／2.0M（DSC-P8のみ）／1.2M／VGA／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（32ページ）。（シングル画面のときのみ）
回転	↶／↷／実行／キャンセル	静止画像を↷右回りまたは、↶左回りに回転する（27ページ）。（シングル画面のときのみ）
分割	実行／キャンセル	動画（MPEGムービー）を分割する（39ページ）。（シングル画面のときのみ）

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

(カメラ1)(DSC-P10)／(カメラ)(DSC-P8)

項目	設定	意味
動画選択	■MPEGムービー／クリップモーション／マルチ連写	動画の撮影モードを選ぶ(16、17、35ページ)。
AF**モード**	■シングルAF／モニタリングAF／コンティニアスAF	ピント合わせの動作モードを設定する(8ページ)。
スマートズーム	■入／切	スマートズームを使うかどうか選ぶ(**別冊基本編** → 22ページ)。
日付/時刻	日時分／年月日／■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうかを設定する(**別冊基本編** → 28ページ)。動画(MPEGムービー)／クリップモーション／マルチ連写では、日付・時刻は挿入されない。また、撮影時は日付や時刻は表示されず、再生時に表示される。
赤目軽減	入／■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する(**別冊基本編** → 26ページ)。
AF**イルミネーター**	■オート／切	暗いところで撮影するとき、AF補助光を発光させるかどうかを選ぶ。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です(**別冊基本編** → 26ページ)。

(カメラ2)(DSC-P10のみ)

項目	設定	意味
ブラケット設定	±1.0EV／■±0.7EV／±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出の振り幅を設定する(13ページ)。

（メモリースティックツール）

項目	設定	意味
フォーマット	実行／キャンセル	“ メモリースティック ”をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、“ メモリースティック ”に記録されているすべてのデータが消去されますのでご注意ください（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
ファイルナンバー	■連番 リセット	– 記録フォルダを変更したり、“ メモリースティック ”を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 – フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）
記録フォルダ作成	実行／キャンセル	新しいフォルダを作成する（5ページ）。
記録フォルダ変更	実行／キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する（5ページ）。

(設定1)

項目	設定	意味
パワーセーブ	入／■切	パワーセーブを使うかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 10ページ）。バッテリー使用時のみ表示される項目。
LCD**明るさ**	明／■標準／暗	液晶画面の明るさを選ぶ。記録される画像に影響はない。
LCD**バックライト**	明／標準／■暗	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
言語	English ■日本語	– メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（4ページ、**別冊基本編** → 13ページ）。

(設定2)

項目	設定	意味
USB**接続**	PTP／■標準	USB接続方法を選ぶ。（**別冊基本編** → 43ページ）
ビデオ出力信号	■NTSC PAL	– ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。

使用上のご注意

置いてはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする
液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする
ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

レンズをきれいにする
レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面のお手入れについて
水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー
- ベンジン
- アルコール
- 化学ぞうきん
- 殺虫剤のような揮発性のもの
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0°C～40°Cです。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

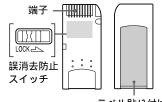
充電方法

本機をACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

“ メモリースティック ” について

“ メモリースティック ”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。“ メモリースティック ”対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータの保存にもお使いいただけます。

“ メモリースティック ”には、一般の“ メモリースティック ”と著作権保護技術（マジックゲート*）を搭載したタイプの“ メモリースティック ”があります。

本機ではマジックゲート搭載の“ メモリースティック ”と一般の“ メモリースティック ”のどちらもご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。

また、本機では“ メモリースティック デュオ ”、“ メモリースティック PRO ”もご使用いただけます。

* “ マジックゲート ”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

- パソコンでフォーマットした“ メモリースティック ”では、本機での動作を保証しません。

“ メモリースティック ”の種類	記録／再生
メモリースティック （メモリースティック　デュオ）	○
マジックゲート メモリースティック （マジックゲート メモリースティック　デュオ）	○**
メモリースティック　PRO	○**

** マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。

“ メモリースティック ”（付属）使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や画像消去ができません。

誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“ メモリースティック ”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“ メモリースティック ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

• 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
• ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
• ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
• 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
• 端子部には手や金属で触れないでください。
• 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
• 分解したり、改造したりしないでください。
• 水にぬらさないでください。
• 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
　―高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
　―直射日光のあたる場所
　―湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック　デュオ”（別売り）使用上のご注意

• “メモリースティック　デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック　デュオ”アダプターに入れてからお使いください。
• “メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック　デュオ”アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。
• “メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック　デュオ”アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
• “メモリースティック　デュオ”アダプターに“メモリースティック　デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“メモリースティック　PRO”（別売り）使用上のご注意

本機で動作確認されている“メモリースティック　PRO”は1GBまでです。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM™ C TYPE

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10°C～30°Cの環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（26ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

主な仕様

■ 本体

[システム]

撮像素子 DSC-P10
9.04 mm（1/1.8型）カラー
CCD
原色フィルター
DSC-P8
6.67 mm（1/2.7型）カラー
CCD
原色フィルター

総画素数 DSC-P10
約5 250 000画素
DSC-P8
約3 340 000画素

カメラ有効画素数
DSC-P10
約5 090 000画素
DSC-P8
約3 210 000画素

レンズ DSC-P10
3倍ズームレンズ
f=7.9 ～23.7 mm（35 mmカメラ換算では38 ～114 mm）、F2.8～5.2
DSC-P8
3倍ズームレンズ
f=6.0 ～18.0 mm（35 mmカメラ換算では39 ～117 mm）、F2.8～5.2

露出制御 自動、
シーンセレクション（7モード）

ホワイトバランス
フラッシュ、オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球

記録方式（DCF準拠）
静止画：Exif Ver. 2.2　JPEG準拠
GIF（クリップモーション時）、DPOF対応
音声付静止画：MPEG1準拠（モノラル）
動画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“ メモリースティック ”

フラッシュ 推奨撮影距離（ISO感度がオートのとき）
DSC-P10
0.5～3.5 m（W）/
0.6～2.5 m（T）
DSC-P8
0.5～3.5 m（W）/
0.5～2.5 m（T）

[出力端子]

A/V OUT（MONO）端子（モノラル）
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス2.2 kΩ

USB端子 mini-B

[液晶画面]

液晶パネル 3.8 cm（1.5型）TFT駆動
総ドット数 123 200（560×220）ドット

[電源・その他]

使用バッテリー
NP-FC11

電源電圧バッテリー端子入力
3.6 V

消費電力（撮影時）
DSC-P10
1.6 W
DCS-P8
1.5 W

動作温度 0°C～40°C
保存温度 –20°C～+60°C
外形寸法 108×51.5×35.1 mm
（幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く）

本体質量　約200 g（バッテリーNP-FC11、"メモリースティック"、リストストラップなど含む）

マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン

スピーカー　ダイナミックスピーカー

Exif Print　対応

PRINT Image Matching II　対応

■ ACアダプター AC-LS5

定格入力　AC 100～240 V、50/60 Hz、11 W

定格出力　DC 4.2 V、1.5 A

動作温度　0°C～40°C

保存温度　－20°C～＋60°C

最大外形寸法
約48×29×81 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約130 g（本体のみ）

■ バッテリーNP-FC11

使用電池　リチウムイオン蓄電池

最大電圧　DC4.2 V

公称電圧　DC3.6 V

容量　2.8 Wh（780 mAh）

付属品

- バッテリーパックNP-FC11
- ACアダプターAC-LS5
- 電源コード
- A/V接続ケーブル
- USBケーブル
- リストストラップ
- "メモリースティック"（DSC-P10: 32 MB／DSC-P8: 16 MB）
- CD-ROM（USBドライバSPVD-010）
- サイバーショット基本編
- サイバーショット応用編／困ったときは
- 安全のために
- 保証書

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや“メモリースティック”などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

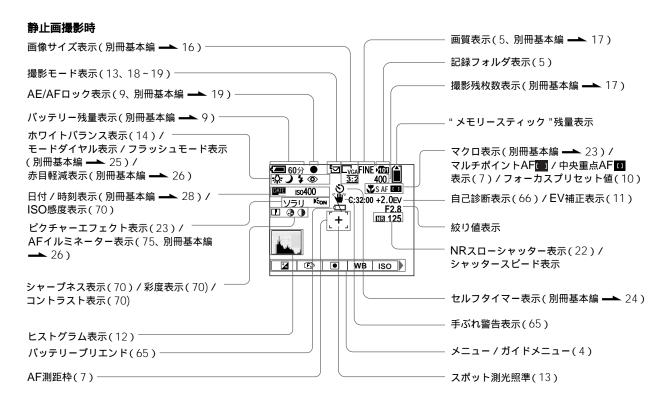
それでも具合の悪いときは

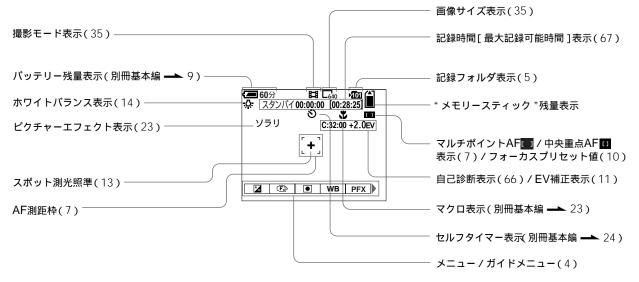
テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

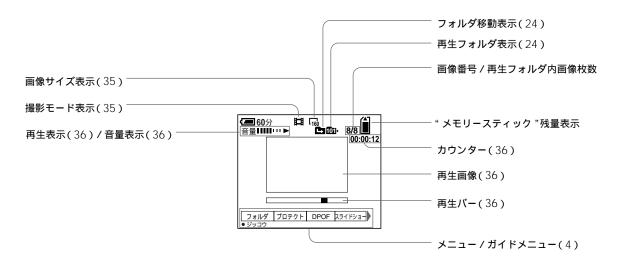
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

画面上の表示

静止画撮影時

動画撮影時

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡ページ番号**」のようにご案内しています。

静止画再生時

撮影モード表示（13、18～19）
フォルダ移動表示（24）
再生フォルダ表示（24）
“ メモリースティック ”残量表示
音量表示（19）／プロテクト表示（30）／
プリント予約マーク表示（33）
60分
x1.3
VGA
101
12/12
再生フォルダ内画像枚数
ズーム表示（別冊基本編 ➡ 22）／
コマ再生表示（28）
画像番号
ヒストグラム表示（12）
画像サイズ表示（別冊基本編 ➡ 16）
フォルダ-ファイル番号
（別冊基本編 ➡ 50）
101-0012
2003 7 4 9:30AM
◀▶モドル/ツギへ
⇕オンリョウ
画像の記録日時表示（別冊基本編 ➡ 13）
／メニュー／ガイドメニュー（4）

動画再生時

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

その他

用語の解説

インストール（41、45、**別冊基本編** ➡ 39ページ）
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込むことです。

“ インフォリチウム ”バッテリー（82ページ）
“ インフォリチウム ”に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能（**別冊基本編** ➡ 12ページ）
本機の電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源を自動的に切る機能のことです。

シャッタースピード
撮影時にCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

スマートズーム（**別冊基本編** ➡ 22ページ）
画像をデジタル処理して画質を劣化させないで拡大することができる機能のことです。最大ズーム倍率は画像サイズによって異なります。

ドライバ（**別冊基本編** ➡ 39ページ）
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（**別冊基本編** ➡ 19ページ）
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくことです。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

ピント（**別冊基本編** ➡ 19ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、撮影距離を設定することもできます。

フォーマット（**別冊基本編** ➡ 35ページ）
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

フォルダ（5、24ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所のことです。ファイルを分類するときに便利です。

ホワイトバランス（14ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく映ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

“ メモリースティック ”（80ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

有効画素数（**別冊基本編** ➡ 6、17ページ）
CCDが光から電気信号に変換できる画素数です。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になります。

露出（11ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編** ➡ 19ページ）
「Auto Exposure」の略です。
被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF（**別冊基本編** ➡ 19、21ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（**別冊基本編 ➡** 6、17ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種のことです。

DCF（**別冊基本編 ➡** 4ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格のことです。

DPOF（33ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。プリント予約したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV（11ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif（83ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

GIF（16ページ、**別冊基本編 ➡** 51ページ）
「ジフ」と読みます。静止画ファイルの形式のひとつで、インターネットのホームページ上で表示を行うときに使われる代表的なものです。 本機では、クリップモーションでの撮影時にGIF形式で画像を保存します。

ISO（70ページ）
「イソ」と読みます。カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（**別冊基本編 ➡** 51ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（35ページ、**別冊基本編 ➡** 51ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画（MPEGムービー）撮影時、MPEG形式で画像を保存します。

OS（**別冊基本編 ➡** 37ページ）
「Operating System」の略で、コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PTP（77ページ、**別冊基本編 ➡** 38ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法のことです。

USB（**別冊基本編 ➡** 37ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格のことです。

VGA（**別冊基本編 ➡** 17ページ）
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お客様へのサポートをより充実させていくため、「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「デジタルイメージングカスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
お問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：0466-38-1410
受付時間：**月〜金曜日　午前10時〜午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話：　0564-62-4979
（電話のおかけ間違いにご注意ください。）
受付時間：　月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①お客様のID
（カスタマーご登録していただくとIDが発行されます。）
②本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

修理申し込み

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合左記のテクニカルインフォメーションセンターへお電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいします。

ImageMixer for Sonyに関するお問い合わせ窓口

ピクセラユーザーサポートセンター
電話：　072-224-0181
受付時間：月〜日曜日　午前9時〜午後5時（ただし、年末、年始、祝日を除く）
http://www.imagemixer.com

3080893O2

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。